

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H00926

研究課題名（和文）摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究

研究課題名（英文）Provision of research materials of historical documents handed down to the regents and a comprehensive study of traditional court nobles' culture

研究代表者

尾上 陽介（ONOE, Yosuke）

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：00242157

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 30,700,000円

研究成果の概要（和文）：摂関家の内で唯一、関係する史料群がほぼ失われずに伝来している近衛家を研究対象とし、陽明文庫などに所蔵される近衛家に伝来した史料群のうち、古文書・古記録や書蹟・絵画等を中心に網羅的に原本調査を行った。これにより目録情報を精緻化し、重要史料の高精細デジタル撮影と画像データの東京・京都における公開を進め、史料群そのものや伝統的公家文化の諸相について研究を行った。傷みのひどい貴重史料については修理して公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

継続的な原本調査により目録情報を精緻化、その成果を反映した9,096点に及ぶ史料（画像数53,941コマ）のデジタルアーカイブ化により、摂関家に伝来した大規模史料群の総合的分析が可能となり、古代から近代にまで至る伝統的公家文化の諸相について多様な視角からの研究を進める基盤を形成した。傷みのひどい貴重史料はこれまで利用不可能であったが、修理を行って解題的研究を進めた上で公開し、今後の研究資源として提供した。

研究成果の概要（英文）：The research focused on the Konoe family, which is the only regal family whose archives have been handed down almost intact, and conducted a comprehensive survey of original documents and records, including old manuscripts and records, calligraphic works, paintings, etc., of the Konoe family archives held in the Yomei Bunko and other collections. The descriptions in the catalog were revised, and high-resolution digital photography of important historical materials was conducted and the image data was made publicly available in Tokyo and Kyoto to promote research on the historical materials themselves and various aspects of the traditional court culture. Severely damaged valuable historical materials were repaired and made available to the public.

研究分野：日本史

キーワード：日本史 近衛家

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 平安時代以来、千年以上にわたって我が国の政治・文化を形作ってきた撰関家に伝来した膨大な史料群は極めて貴重なものであるが、その多くは近代に至るまでに焼失あるいは散逸し、これまで史料群として各方面から分析することは困難な状況であった。幸い公益財団法人陽明文庫には撰関家筆頭近衛家に伝来した奈良・平安時代から近代に及ぶまでの古記録・古文書・古典籍などの史料十数万点がまとまって所蔵されており、ユネスコ記憶遺産に登録された『御堂関白記』など約70件の国宝・重要文化財も含まれている。このように千年以上にわたって権力の中枢に位置した家の文庫が、歴史史料から文学作品や美術工芸品まで幅広く残されている点は他に類例がなく、伝統的公家文化を研究するためにはその総体を把握して検討することが重要であるが、これまで目録すら広く公開されているとは言い難い状況であった。

(2) 研究代表者尾上はこれまで東京大学史料編纂所において歴代関白記などの編纂に携わっており、二十数年間にわたり陽明文庫所蔵史料の部分的調査を進めてきた。また、平成19~23年度科学研究費補助金(学術創成研究費)「目録学の構築と古典学の再生 - 天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明 -」(研究代表者田島公)と、それを継承した平成24~28年度科学研究費補助金(基盤研究(S))「日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充 天皇家・公家文庫を中心に」(研究代表者同)の研究分担者として、近衛家伝来史料の分析とデジタル化を担当してきた。本研究開始時点までに全ての目録情報について粗入力を終え、そのデータを基に、十五函目録掲載史料(いわゆる十五函文書)など、すでに学界でその存在が知られており陽明文庫の基盤というべき古代・中世最重要史料については、調査と高精細デジタル撮影をほぼ終えた段階であったが、その点数は計約2,000点余りであり、膨大な近衛家伝来史料群全体の構成からみると依然としてまだごく一部に過ぎない状況であった。

2. 研究の目的

(1) 撰関家に伝来した大規模史料群について、原本調査に基づき精緻化された目録情報と、その知見を反映した高精細デジタル史料画像を整備・公開することにより研究資源化を進めるとともに、これまで広く利用されていなかった史料を用いて伝統的公家文化の総合的研究を行うことを目的とする。

(2) 具体的には、撰関家の内で唯一関係史料群がほぼ散逸することなく伝来している近衛家を研究対象とし、陽明文庫等に所蔵される近衛家伝来史料群のうち、古文書・古記録や書蹟・絵画等を中心に、網羅的な原本調査により目録情報を精緻化し、重要史料の高精細デジタル撮影と画像データの東京・京都における公開を進める。同時に従来利用されることの少なかった大規模史料群全体を各方面から分析し、伝統的公家文化の諸相について研究を深化させる。また、顕微鏡などを利用した詳細な紙質分析を通して撰関家を使用した紙の実態を調査し、公家社会における紙の使用法についても考察する

3. 研究の方法

(1) 近衛家伝来史料のうち、これまでの大型科研の成果により原本調査からデジタルデータの公開までほぼ終了している「十五函文書」等以外の中世・近世の古文書・古記録や書蹟・絵画などを中心に、陽明文庫以外の機関に所蔵される撰関家関係史料も視野に入れながら、原本調査を行う史料群を検討する。

(2) 陽明文庫等の史料所蔵機関に於いて調査対象史料群の原本を網羅的に閲覧し、これまで文庫内部で利用されていた目録情報を増訂し精緻化を図る。その知見を踏まえて撮影すべき重要史料の選定を行い、史料画像一コマ毎に写し込む「史料番号」「史料名」「所収年月日」等のキャプションを用意する。高精細デジタル撮影を行った後には史料画像データを整理してデジタルアーカイブ化を進め、陽明文庫との協議により、東京大学史料編纂所図書閲覧室の端末と陽明文庫ホームページの「陽明文庫デジタルアーカイブ」から公開を進める。

(3) 従来あまり利用されていなかった史料の原本調査や、そのデジタル画像を詳細に分析することにより、古代から近代に至るまでの非常に長期間の、政治・経済・芸術など多岐にわたる伝統的公家文化の様相を総合的に研究し、成果を論文や口頭報告により公開するとともに、一般市民向けの公開講座を開催し、広く社会に成果を還元する。

(4) 東京大学史料編纂所史料保存技術室の高島晶彦氏の協力を得て近衛家伝来史料の紙質調査を行い、前近代の公家社会で利用されていた紙の分析を行う。その知見を踏まえて、虫損などによる傷みの酷い重要史料の修理を進め、完了後には史料画像や解題的研究を公開し、今後の研究資源として提供する。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果としては、以下のようなものがある。

近衛家伝来史料のうち、すでに大規模公開の成果として利用状況が整備されている「十五函文書」以外の、これまで目録の公開や史料画像のデジタル化がごく一部に止まっている「一般文書目録」(古代より近代に至るまでの文書・記録類約98,600点)や「佳品目録」(懐紙・書蹟・絵画など約450点で指定文化財を多く含む)に記載されている古文書・古記録・古典籍・書蹟・手鑑・絵画等を中心に原本調査を行い、目録情報を精緻化するとともに、その成果を反映した史料名等のキャプションを写し込むかたちで高精細デジタル撮影を行った。

2020年度・2021年度については新型コロナウイルス感染症予防のために原本調査の機会が極めて限定されてしまったため、それぞれ一部の経費を次年度に繰り越して対応した。最終的には計9,096点の史料について高精細デジタル撮影を行い、史料画像数は計53,941コマとなった。

これらの画像については、前記の通り陽明文庫との協議に従い東京大学史料編纂所図書館閲覧室の端末と陽明文庫ホームページの「陽明文庫デジタルアーカイブ」から公開を進めている。

虫損等により傷みが酷く閲覧が困難な中世以前の貴重史料については、研究協力者で東京大学史料編纂所史料保存技術室の高島晶彦氏の協力により、陽明文庫長と協議しつつ料紙の紙質調査を行い、その成果を踏まえて補修紙を用意して修理を行った。具体的には『御八講』(鎌倉時代前期の近衛家の家司であった平時兼の日記原本)・『臨時祭之事』(南北朝期の春日社若宮臨時祭の詳細な記録の古写本で、これまで全く存在が知られていなかった新出史料)・『僧綱補任』下巻(同系統の本文の祖本で、撰関家内で編集されて平安後期に書写されたもの)などである。これらの全てに高精細デジタル撮影を行って画像データを公開し、内容については解題の研究と翻刻を進め、論文集や研究紀要に掲載して刊行した。

原本調査・デジタル撮影・史料修理をひとまず終えた後には研究の取りまとめを行い、令和5年3月に尾上陽介編『禁裏・公家文庫研究』第9輯(思文閣出版、全450頁)を刊行した。いずれも撰関家に伝来した史料を中心に用いて伝統的公家文化や史料そのものを研究した成果である。具体的な内容は、島谷弘幸「近衛家伝来の『和漢朗詠集』の古筆」(宮廷貴族社会で愛好された『和漢朗詠集』の近衛家伝来諸本の古筆研究からの分析)/恵美千鶴子「平清盛・頼盛両筆「紺紙金字経」および「巖島切」の整理と伝来」(巖島神社所蔵「紺紙金字経」とその断簡の研究)/藤井讓治「近衛前久花押の変遷」(戦国期の近衛家当主前久の花押の変遷状況とその背景の研究)/尾上陽介「陽明文庫所蔵『僧綱補任』について」(上記『僧綱補任』下巻の研究と紹介)/藤井讓治・遠藤珠紀「近衛前久書状の紹介」(「近衛家記録十五函文書」・「東求院筆物」所収分)(前久の重要書状原本の研究と翻刻)/遠藤珠紀「寛文七年『御ゆとのの上の日々記』の紹介」(新発見の陽明文庫所蔵寛文7年正月『御湯殿上日記』原本の研究と翻刻)/尾上陽介「『基瀬公記』の原本について」(江戸中期の近衛家当主基瀬の日記原本の研究と目録の整理)であり、さらに遠藤珠紀・尾上陽介・藤井讓治「陽明文庫所蔵一般文書目録「消息」高精細デジタル撮影目録および索引」(近世書状類の高精細デジタル撮影目録と人名索引で、画像は陽明文庫デジタルアーカイブなどから公開している)を収載した。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけは、近衛家伝来史料群は唯一無二の価値をもつ史料群であるため、今後、わが国の歴史や文化を研究する際に基盤の一つとなるものである。インパクトという面では、新たな史料を数多く研究資源化した点がある。たとえば上の「陽明文庫所蔵一般文書目録「消息」高精細デジタル撮影目録および索引」により、これまで目録が広く公開されず利用が困難であった書状8,600点弱の史料番号・史料名・年月日・書き出し文言の一覧を原本調査の成果を反映させた上で公開した。史料画像も陽明文庫の協力により上記「陽明文庫デジタルアーカイブ」から誰でもダウンロード可能である。市民の関心も高く、毎年陽明文庫講座にはコロナ感染症対策の時期を除き200名以上の参加者がある。講演で紹介した史料が報道されることもあり、最近では絵文字入りの書状を紹介したところ「元祖「絵文字メール」読解」という見出しで2023年2月20日の京都新聞夕刊1面に記事が掲載された。

(3) 今後の展望としては、近衛家伝来史料群は巨大であるため、依然として数多くの未調査・未撮影史料が残されている現状を考慮すると、長期間かつ着実に本研究で進めたような基礎的調査と高精細デジタル撮影等による研究資源化を継続することが必要である。特に近年は自然災害が激甚化しており、貴重な史料の調査と撮影データの作成・保管はますます重要になっている。また、たとえば近衛家伝来史料群には勅書等の最も公的なものから個人の書状等の私的なものに至るまで幅広く、時期的にも古代から近代に至る長期間にわたって実に多種多様な紙が含まれていることに着目すれば、古文書や古記録・古典籍に使用された料紙について紙質分析データを蓄積することにより、前近代における和紙の利用状況をより総合的に分析することも可能であろう。質が高く点数も多い史料群がまとまって存在することの価値は極めて高く、研究資源化を継続する意義はまことに大きい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 遠藤珠紀	4. 巻 93
2. 論文標題 新たな山中長俊書状と豊臣秀吉の「唐入り」構想	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 119-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 遠藤珠紀	4. 巻 20
2. 論文標題 北条政子危篤の報と公家社会	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 書物学	6. 最初と最後の頁 29-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 遠藤珠紀・須田牧子・田中奈保・桃崎有一郎	4. 巻 33
2. 論文標題 綱光公記 宝徳三年四月～六月記	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 153-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 金子拓・遠藤珠紀・志賀節子・高橋敏子	4. 巻 33
2. 論文標題 賀茂別雷神社領関係文書	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 95-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀・宮崎肇・金子拓	4. 巻 70
2. 論文標題 『宣教卿記』天正三年記紙背文書（一）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 早稲田大学図書館紀要	6. 最初と最後の頁 112-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小塩慶・尾上陽介	4. 巻 31
2. 論文標題 陽明文庫所蔵『臨時祭之事』および紙背『貞観政要』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 75-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤井讓治	4. 巻 18
2. 論文標題 在国大名と江戸	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福井県文書館研究紀要	6. 最初と最後の頁 13-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 56
2. 論文標題 嚴島神社蔵「平家納経」受容の歴史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京国立博物館紀要	6. 最初と最後の頁 1-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀	4. 巻 45
2. 論文標題 佐藤進一氏と「王朝国家」論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報中世史研究	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀	4. 巻 867
2. 論文標題 豊臣秀次事件と金銭問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 63-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子拓・遠藤珠紀	4. 巻 153
2. 論文標題 『兼見卿記』紙背文書(五) 慶長七・八年記紙背	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ビブリア	6. 最初と最後の頁 63-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子拓・遠藤珠紀	4. 巻 154
2. 論文標題 『兼見卿記』紙背文書(六) 慶長十三年記紙背	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ビブリア	6. 最初と最後の頁 57-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀	4. 巻 68
2. 論文標題 『宣教卿記』天正四年正月～三月記	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学図書館紀要	6. 最初と最後の頁 74-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島谷弘幸	4. 巻 25
2. 論文標題 「粘葉本和漢朗詠集」の魅力	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三の丸尚蔵館紀要	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高島晶彦・名和知彦	4. 巻 88
2. 論文標題 室町時代の引合紙について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 80-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀	4. 巻 727
2. 論文標題 中世の元号	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史と地理 日本史の研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀	4. 巻 12
2. 論文標題 國學院大學図書館所蔵「神主竹内明久日次記」(座田文書)の解題と翻刻	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 國學院大學校史・学術資産研究	6. 最初と最後の頁 197-225
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀・須田牧子・田中奈保・桃崎有一郎	4. 巻 30
2. 論文標題 綱光公記 宝徳二年四月～五月記	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 170-178
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀・宮崎肇・金子拓	4. 巻 67
2. 論文標題 宣教卿記 天正三年六月～一二月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学図書館紀要	6. 最初と最後の頁 82-112
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金子拓・遠藤珠紀	4. 巻 151
2. 論文標題 『兼見卿記』紙背文書(三)文禄三年春夏記・同秋冬記紙背	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒブリア	6. 最初と最後の頁 67-91
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子拓・遠藤珠紀	4. 巻 152
2. 論文標題 『兼見卿記』紙背文書(四)慶長二年記紙背	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ビブリア	6. 最初と最後の頁 64-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井讓治	4. 巻 101-4
2. 論文標題 徳川家康の叙位任官	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史林	6. 最初と最後の頁 39-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井讓治	4. 巻 42
2. 論文標題 慶長五年の「小山評定」をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 龍谷日本史研究	6. 最初と最後の頁 1-43
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 466
2. 論文標題 家熙の彩った「予楽院表具」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 なごみ	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 24
2. 論文標題 「古筆手鑑（第三類）」の内容紹介と考察 - 近衛家熙との関係から -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三の丸尚蔵館年報・紀要	6. 最初と最後の頁 13-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子拓・遠藤珠紀	4. 巻 149
2. 論文標題 『兼見卿記』紙背文書（一）文禄三年春夏記・同秋冬記紙背	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ビブリア	6. 最初と最後の頁 77-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子拓・遠藤珠紀	4. 巻 150
2. 論文標題 『兼見卿記』紙背文書（二）文禄四年春夏記・同秋冬記紙背	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ビブリア	6. 最初と最後の頁 71-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀・須田牧子・田中奈保・桃崎有一郎	4. 巻 29
2. 論文標題 綱光公記 宝徳二年正月～三月記	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 133-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀・宮崎肇・金子拓	4. 巻 66
2. 論文標題 宣教脚記 天正三年正月～五月記	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田大学図書館紀要	6. 最初と最後の頁 145-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤井讓治	4. 巻 84
2. 論文標題 家康「忠恕」の印章 家康御内書成立前史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 115-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀	4. 巻 2
2. 論文標題 中世後期の女性の日記 伝『大外記中原師生母記』について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 87-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 尾上陽介	4. 巻 2
2. 論文標題 『明月記』原本の特異性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 7-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 尾上陽介
2. 発表標題 陽明文庫所蔵史料のあれこれ
3. 学会等名 陽明文庫講座
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤井讓治
2. 発表標題 近衛前久書状と秀次事件
3. 学会等名 陽明文庫講座
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 島谷弘幸
2. 発表標題 複製品の歴史と意義
3. 学会等名 日本博主催共催型プログラム『日本文学展～文学とメディアの千年譚～』文化財リマスターシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 島谷弘幸
2. 発表標題 宸翰（天皇の書）の鑑賞 - 時代とその風格を味わう -
3. 学会等名 第91回学習院大学史料館講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 尾上陽介
2. 発表標題 修理を終えた史料から
3. 学会等名 陽明文庫講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 尾上陽介
2. 発表標題 古代・中世貴族社会における日記の役割
3. 学会等名 文京アカデミア講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 恵美千鶴子
2. 発表標題 博物館にとっての複製品
3. 学会等名 日本博士主催共催型プログラム『日本文学展～文学とメディアの千年譚～』文化財リマスターシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤珠紀
2. 発表標題 天正十六年『聚楽第行幸記』について
3. 学会等名 国文研共同研究「軍記および関連作品の歴史資料としての活用のための基盤的・学際的研究」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤珠紀
2. 発表標題 天正一六年聚楽行幸について
3. 学会等名 国史学会例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 遠藤珠紀
2. 発表標題 豊臣秀次に関する書状から
3. 学会等名 陽明文庫講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 尾上陽介
2. 発表標題 The Konoe Legacy: Precedents Passed Down Over A Millennium
3. 学会等名 USC Kambun Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 恵美千鶴子
2. 発表標題 平安時代の書の美～空海から行成まで～
3. 学会等名 貞香会展講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤珠紀
2. 発表標題 シンポジウム佐藤進一の軌跡ーいま、「中世国家」を問うー 佐藤進一氏と「王朝国家」論
3. 学会等名 中世史研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島谷弘幸
2. 発表標題 近衛家伝来の書と家熙
3. 学会等名 陽明文庫講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾上陽介
2. 発表標題 史料編纂所による陽明文庫の調査と史料集刊行の学術的意義
3. 学会等名 陽明文庫設立80周年記念特別研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤泰弘
2. 発表標題 所当と所課
3. 学会等名 日本史研究会古代史部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島谷弘幸
2. 発表標題 時代とともに - 変貌する博物館 -
3. 学会等名 吉備学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 島谷弘幸
2. 発表標題 大宰府ゆかりの書
3. 学会等名 西日本華道講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 島谷弘幸
2. 発表標題 書の魅力と見方
3. 学会等名 九州女子大学記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 島谷弘幸
2. 発表標題 日本における中国書法の影響
3. 学会等名 福岡市博物館・西区よかところ案内人連絡協議会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計31件

1. 著者名 尾上陽介・島谷弘幸・恵美千鶴子・藤井讓治・遠藤珠紀	4. 発行年 2023年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 450
3. 書名 禁裏・公家文庫研究 第九輯	

1. 著者名 藤井讓治	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 422
3. 書名 近世初期政治史研究	

1. 著者名 京都大学文学部日本史研究室・藤井讓治	4. 発行年 2022年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 378
3. 書名 光豊公記	

1. 著者名 丸島和洋・遠藤珠紀他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 宮帯出版社	5. 総ページ数 532
3. 書名 武田信玄の子供たち	

1. 著者名 名和修・尾上陽介・田島公・山本登朗・島谷弘幸・遠藤珠紀・小塩慶・藤原重雄・新井重行・佐竹朋子・木村真美子・末柄豊	4. 発行年 2023年
2. 出版社 藤原印刷	5. 総ページ数 46
3. 書名 陽明文庫講座図録 4	

1. 著者名 渋谷綾子・天野真志・石川隆二・小倉慈司・尾上陽介・後藤真・高島晶彦・中村覚・貫井裕恵・野村朋弘・本郷恵子・山田太造・山家浩樹	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 240
3. 書名 古文書の科学	

1. 著者名 前田育徳会尊経閣文庫・菊地大樹・尾上陽介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 336
3. 書名 尊経閣善本影印集成70 実躬卿記 4・宣陽門院御落飾記・後愚昧記（山門嗷訴記・実豊卿記）外記日記（新抄）2・享禄二年外記日記	

1. 著者名 ふくやま美術館・島谷弘幸他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 二葉印刷	5. 総ページ数 69
3. 書名 桑田家コレクション～古筆の美	

1. 著者名 前田育徳会尊経閣文庫・遠藤珠紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 312
3. 書名 尊経閣善本影印集成73 外記日記(新抄)2・享禄二在外記日記	

1. 著者名 前田育徳会尊経閣文庫・尾上陽介・末柄豊・高橋典幸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 尊経閣善本影印集成71 公秀公記・実隆公記・建治三年記	

1. 著者名 名和修・田島公・藤原重雄・木村真美子・尾上陽介・小塩慶・末柄豊・藤井讓治・遠藤珠紀・名和知彦・松澤克行・恵美千鶴子・島谷弘幸	4. 発行年 2021年
2. 出版社 藤原印刷	5. 総ページ数 36
3. 書名 陽明文庫講座 図録2	

1. 著者名 名古屋市博物館・藤井讓治他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 336
3. 書名 豊臣秀吉文書集七	

1. 著者名 赤澤春彦・米井輝圭・下村周太郎・山口啄実・森茂暁・遠藤珠紀・西岡芳文・菅原正子・湯浅吉美・福島金治・永井晋・梅田千尋・太田まり子・木村純子・山村雅史・ハイエク-マティアス	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名著出版	5. 総ページ数 577
3. 書名 新陰陽道叢書 2 中世	

1. 著者名 藤井讓治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 456
3. 書名 徳川家康	

1. 著者名 藤井讓治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 敬文舎	5. 総ページ数 320
3. 書名 天下人秀吉の時代	

1. 著者名 田島公・糸賀優理・徳仁親王・木村真美子・金田章裕・藤原重雄・尾上陽介・末柄豊・小倉慈司・金子拓・松澤克行他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 40
3. 書名 陽明文庫 近衛家伝来の至宝	

1. 著者名 田島公・尾上陽介・林大樹・印南志帆・藤原重雄・山岡瞳・遠藤珠紀・小倉慈司・石井悠加・糸賀優理・吉岡眞之・Jason P. Webb他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 390
3. 書名 禁裏・公家文庫研究 第七輯	

1. 著者名 田島公・島谷弘幸・名和修・恵美千鶴子・藤井恵介・山口英男・藤原重雄・尾上陽介・木村真美子・末柄豊・藤井讓治・名和知彦・糸賀優理	4. 発行年 2020年
2. 出版社 藤原印刷	5. 総ページ数 36
3. 書名 陽明文庫講座 図録 1	

1. 著者名 高橋 秀樹・櫻井 彦・遠藤 珠紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 史料纂集 勸仲記六	

1. 著者名 橋本政宣・岸本眞実・金子拓・遠藤珠紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店古書出版部	5. 総ページ数 250
3. 書名 史料纂集 兼見卿記七	

1. 著者名 名和修・糸賀優理・徳仁親王・木村真美子・金田章裕・藤原重雄・尾上陽介・末柄豊・田島公・金子拓・松澤克行	4. 発行年 2018年
2. 出版社 精興社	5. 総ページ数 33
3. 書名 陽明文庫設立80周年記念特別記念研究集会記念図録 - 最新の研究成果の報告と陽明文庫の過去と未来 -	

1. 著者名 佐藤信・小口雅史・島谷弘幸・遠藤珠紀他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 310
3. 書名 古代史料を読む 下	

1. 著者名 前田雅之・遠藤珠紀他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 544
3. 書名 画期としての室町	

1. 著者名 高橋典幸・五味文彦・遠藤珠紀他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 中世史講義	

1. 著者名 田島公・藤井讓治・恵美千鶴子・神戸航介・黒須友里江・尾上陽介・藤原重雄・遠藤珠紀・小倉慈司	4. 発行年 2017年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 410
3. 書名 禁裏・公家文庫研究 第六輯	

1. 著者名 新川登亀男・早川万年・榎本淳一・水口幹記・鄭淳一・川尻秋生・倉本一宏・尾上陽介・小倉慈司・前澤和之ほか25名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 864
3. 書名 日本古代史の方法と意義（中世近衛家の日記目録について）	

1. 著者名 辻本雅史・藤井讓治・W.J.ボート・劉序楓・横山伊徳・張寅性・陳王韋芬・朱徳蘭	4. 発行年 2017年
2. 出版社 国立台湾大学出版中心	5. 総ページ数 304
3. 書名 鎖国と開国 近世日本の「内」と「外」（「鎖国」の捉え方 その変遷と現在の課題）	

1. 著者名 藤田達生・藤井讓治・本多博之・山本浩樹・光成準治・平井上総・長屋隆幸・山下智也・羽柴亜弥・水野智之・小久保嘉紀・三鬼清一郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 317
3. 書名 織豊期研究の現在（身分としての奉公人 その創出と消滅）	

1. 著者名 高橋秀樹、櫻井彦、遠藤珠紀（遠藤珠紀）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 306
3. 書名 勸仲記5	

1. 著者名 橋本政宣、岸本眞美、金子拓、遠藤珠紀（遠藤珠紀）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 264
3. 書名 兼見卿記6	

1. 著者名 九州国立博物館（島谷弘幸）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 西日本新聞社	5. 総ページ数 218
3. 書名 王羲之と日本の書（書の楽しみ方とその魅力）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤井 讓治 (FUJII Joji) (40093306)	京都大学・文学研究科・名誉教授 (14301)	
研究分担者	島谷 弘幸 (SHIMATANI Hiroyuki) (90170935)	独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・未登録・館長 (87106)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 泰弘 (SATOY Yasuhiro) (30289011)	甲南大学・文学部・教授 (34506)	
研究分担者	恵美 千鶴子 (EMI Chizuko) (60566123)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・室長 (82619)	
研究分担者	遠藤 珠紀 (ENDO Tamaki) (10431800)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	名和 修 (NAWA Osamu)		陽明文庫長
研究協力者	名和 知彦 (NAWA Tomohiko)		陽明文庫事務長
連携研究者	高島 晶彦 (TAKASHIMA Akihiko) (10422437)	東京大学・史料編纂所・技術専門職員 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 御所（宮殿）・邸宅造営関係資料の地脈と新天地	開催年 2020年～2020年
----------------------------------	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------